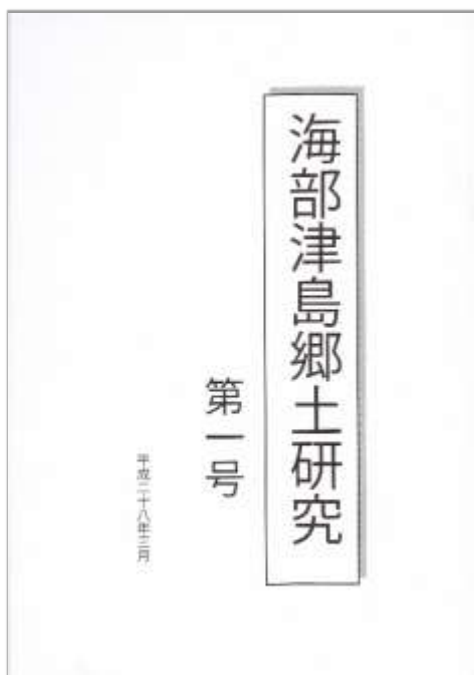


『海部津島郷土研究 第一号』



サイズ：A5版 ページ数：148 ページ

全国の自治体では、歴史文化を生かした「まちづくり」が行われています。海部津島地方は歴史文化の市民共有が他地方に比べて着実に進展しています。

平成四年に海部歴史研究会（旧 海部津島の郷土の歴史を考える会）が発足し、平成十二年に津島を拠点に置く天王文化塾が発足しました。この二つの組織を構成していた学芸員、教師、郷土研究者らの相互交流が深まり、海部津島地方の歴史文化を「学ぶ」ための講座、市民共有を図るための郷土本の刊行等が活発に行われるようになりました。各自治体の観光ボランティアガイド会の発足、ご当地検定の実施なども成果といえます。

歴史文化講座、郷土本出版の基盤は、当然ながら史料の調査研究の蓄積です。新たな調査研究の積み重ねがないと、歴史文化の発展はありません。

本書刊行の一義的な目的は、新たな郷土研究成果の市民共有にあります。

構成

- 1 ある地域史研究への試み
尾張国海東郡百町村吉川家文書の検討を通して 石田泰弘 著
- 2 「大祭筏場車記録」にみえる織豊期津島の村について 羽柴亜弥 著
- 3 郷土愛はふるさと検定から
「ふるさと検定」等の実践を通して 浅井厚視 著
- 4 天王川公園の開設とその経緯
大正期における津島町の一大プロジェクト 園田俊介 著
- 5 江戸初期における津島神主氷室家と堀田右馬大夫家の葛藤 黒田剛司 著

発行日：平成28年（2016）3月30日

著者：石田泰弘・羽柴亜弥・浅井厚視・園田俊介・黒田剛司

発行所：NPO 法人まちづくり津島、天王文化塾

頒価：800 円（税込） 送料：210 円